誤嚥（ごえん）性窒息死のない世の中へ！命の危険が潜む夜間労働者（個人・団体）に愛と光を!!

連載116 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

（医）東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義（67歳・内科）

現代のゴミ屋敷に住む老々介護の夫婦に出会う。

「先生あぶない!!廊下の板がもろくなっているため、足が抜けるよ!」思わず叫ぶ、私と同行していた若きスタッフ。

ある日の午後。行政からの依頼でM.Oさん（80歳、男性）の介護系書類作成を頼まれました。話によると、接近困難な事例のようです。先に訪問していた別のメディカルスタッフからある程度の情報は得ていました。

訪問してみると、玄関先からまっすぐに廊下がのびていて、その左右にいくつかの部屋がありました。私は、ミシッミシッという音に警戒しながら廊下を進み、ベッドルームのドアをあけました。そこには、M.Oさんが介護用ベッドに、目を閉じて横たわっていました。隣室の奥さんとは、襖を取り払っているため、距離はありますが一部屋続きとなっており、私たちの行動はしっかり分かるようでした。

私はM.Oさんに病歴を尋ねましたが、難聴であるうえ認知力低下のため、あまり反応せず、ベッドに横たわっているだけなのでした。そうしているうちに、奥さんがおもむろに立ち上がって、ヨロヨロ歩いてこちらに来ようとしました。あわてて私たちが駆け寄り、介護をしながら奥さんに話を聞くことにしたのです。

M.Oさんは、病院には特にかからず、自然に体力が落ちてきたようですが、詳しくは分かりませんでした。また、食事などは、近所に住む娘さんが、毎日のようにやって来て世話をしているようでした。

部屋全体を見回してみると、もともと、ごく普通の家庭のようです。しかし、年月が流れ、子どもたちも巣立ち、今のような現状になったのでしょう。

場合によっては、いつの日か私たちもそうなるかもしれない未来なのだと認識しつつ、お二人の今後について、私たちが協力できることは、何でもさせていただこうと心に決め、その場を後にしました。

一般に、社会保障の充実度が国の品格や文化の成熟度を決め、評価されるといわれています。

現在は、特に高齢者や障害者に対して、ノーマライゼーションの質が十分担保されているか、見直されるべきです。

今回のケースのように、個人や家族に“愛”と“慈しみ”があっても、日々のお世話が身内だけでは限界があります。ですから、行政の適切な支援があってこそ、偶発的な悲劇を避けることができるのです。

私たちは、それらを積極的に促すために、平成29年1月吉日、超常派の議員たちとともに『医療福祉環境研究会（松山）』を発足いたしました。

～安全・安心・健康塾～
〈ボランティア活動〉
人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。（5分間ルール）
現場の人達を救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まる。

外来診療（かかりつけ医） 要予約
総合内科・漢方診療科
お医者さんが来てくれる
24時間・365日体制で対応（松山市全域）

私たちは、質の高い
在宅医療・看護・介護を
目指しています。

医師数 22名
（常勤8名、非常勤14名）
内科・外科専門医 18名
（国立がんセンター勤務歴有3名）
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 2名
（ペインクリニック科）
末期がん治療（緩和ケア）相談室開設！

（医）東西会イメージキャラクター
「イチゴ・ツル・カメ」
三世代の「絆」を表すキャラクターです。
イチゴはこどもたち、
ツルはお父さん・お母さん、
カメはおじいちゃん・おばあちゃんを
表しています。

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
（医）東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9 ☎089-933-3788 http://www.touzaikai.jp/